

救急患者における重症度と赤血球容量粒度分布幅変動係数 (RDW-CV) の関連性について

○橋本結香, 佐波友理, 石坂優真, 長谷健二,
眞々田賢司, 平澤博之* (東千葉メディカルセンター
検査部、東千葉メディカルセンター 救急科*)

【目的】赤血球容量粒度分布幅変動係数 (RDW-CV) は、従来貧血の分類に有用であるとされていた。しかし2014年 Steven W. Purtle らにより、救命救急処置を行った患者の重症度と RDW-CV が関連していると報告された。今回我々はそれを検証するため、当センターの救命救急センターに搬送された患者の重症度と RDW-CV の関係を検討したので報告する。

【対象および方法】2015年5月2日から2015年7月31日まで当センター救命救急センターに搬送された患者663例について、JTAS (Japanese Triage and Acuity Scale) のトリアージ分類で分類した5つの群と健常者群 (140例) の RDW-CV を比較した。さらに、RDW-CV に対し IL-6、WBC、CRP、血液ガスデータ (pH、乳酸:Lac、アニオンギャップ:AG) との比較も行った。ただし第5群は軽症者で採血を実施した件数が少なかったため、今回の検討からは除外した。

【結果】健常者群と各トリアージ群の RDW-CV を比較した結果、健常者群 (平均値±SD: 12.77±1.03) と1群 (13.91±1.63)、2群 (13.50±1.48)、3群 (13.69±2.13) で t 検定による有意差を認め、さらに1~3の各群と4群 (13.00±1.07) でも有意差を認めた。また RDW-CV と他項目との比較では、IL-6 で2群 ($r=0.362$) と4群 ($r=0.828$)、WBC で2群 ($r=0.368$)、そして pH ($r=0.485$)、Lac ($r=0.451$)、AG ($r=0.237$) で1群と良好な相関関係が認められた。

【考察および結論】健常者群と比較して重症度が高い1~3群の RDW-CV は増加していたが、4群では差を認めなかった。さらに、RDW-CV とサイトカインである IL-6 の関連性は、比較的高いことが認められた。このことから、RDW-CV が救急患者の重症度の評価に有用であり、さらに炎症がより強い症例で高値傾向にあることが示唆された。(連絡先 0475-50-1199)